

平成25年度JA稲作部会総会を開催

高品質米の収量増加と、安定供給を誓い合う



▲社会における農業の多目的な役割の重要性を語る袴田組合長

JA稲作部会総会（大塚公隆部会長）が4月15日に開催され、平成24年度の事業実績や平成25年度の事業計画などを協議し、全議案を原案通り承認しました。

総会には部員やJAなど、約20名が参加。はじめに袴田組合長が「カントリーエレベーターを利用した水田農業の振興を進め、地域農業の重要性をアピールしていききたい。」と挨拶しました。事業計画では、健苗コンクールの実施や、展示圃の充実による栽培技術向上への取り組みなどが協議され、更なる白神米ブランド強化を誓い合いました。



JAと能代市が共同で、1人あたり玄米60kgを寄贈 地域一体で、能代工業バスケットボール部を応援

能代市が全国に誇る能代工業高校バスケットボール部に対し、JAと能代市は応援として、同部の寮生と下宿生に向けて、1人あたり60kgの玄米を寄贈いたしました。

この取り組みは「バスケの街づくり計画」の一環として行われており、今年で2年目となります。贈呈にあたり、袴田組合長は「愛情込められた美味しいお米を食べて、より一層練習に励んで下さい。」と激励。それに対し、部員代表の川満翔太さんは「地域の方々の期待に応え、全国優勝を目指して頑張ります。」と抱負を語ってくれました。



▲能代工業高校バスケットボール部へ白神米を寄贈

JA・行政と一体となって、事業拡大を図る

天候不順に左右されない、栽培技術の確立を目指す



▲地域の大豆栽培技術向上・規模拡大に思いを語る高橋組合長

平成25年度の事業計画などを協議する、JA大豆生産組合総会が4月11日に開催され、全議案を原案通り承認しました。

総会では、高橋信男組合長が「24年度は天候不順が品質や収量に大きく影響したが、その経験を糧に栽培管理を改善し、安定した出荷を目指す。」と抱負を語り、その後協議が行われました。また、能代市農業振興課から、大豆・麦等生産体制緊急整備事業における助成について説明が行われ、参加者は補助を利用した土壌改良剤の使用や、農業機械のリースについて検討していました。

